

## 安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会 第3回会議 会議録

日時 令和3年5月14日（金）

午後14時00分～16時10分

場所 サン・アルプス大町（大町市）

### ◎開 会

○司会 皆様、大変お忙しいところをお集まりをいただきましてありがとうございます。ただいまから安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会の第3回会議を開会いたします。私は、本日の進行を務めます安曇野市教育部部長の平林と申します。どうぞよろしく願います。

前回は総合技術高校の先例校であります須坂創成高校の西澤校長先生と佐久平総合技術高校の田中校長先生から総合技術高校の学びと統合後の学校の様子や教育課程等について、お話しいただきました。

本日は、最終回ということで、報告案の審議を主な内容としております。

また、前回の会議の議事録であります但事前送付をしております。会議事項の冒頭にご確認をお願いいたします。

最初に、お手元の資料のご確認をお願いいたします。

次第の下のほうに記載してございますのでご確認をお願いいたします。

次第の表紙にとじてあります、次第、事前に寄せられたご意見でございます。それから、座席配置図、報告（案）ということでございますが、不足している方があればお申出をいただければと思います。

それでは、最初に長野県教育委員会駒瀬室長からご挨拶がございます。お願いします。

○事務局（県教育委員会） 皆様、こんにちは。

県教育委員会高校教育課高校再編推進室長の駒瀬隆でございます。

本日はお忙しいところご参集いただきまして、心から感謝申し上げます。

また、前回の4月26日の会議から間を空けず、さらにゴールデンウィークを挟む開催をなりましたが、荒井座長様をはじめとする構成員の皆様方、また市町村の教育委員会事務局の皆様方には合同部会の開催準備など迅速にご対応いただいたと聞いております。皆様、改めましてご準備に心より御礼申し上げます。

さて、本日の合同部会ですが、先ほどもありましたが、最終の会議ということで、11区の懇話会及び12区協議会への報告内容についてご審議いただくことになっております。

前回の会議の皆様方のご発言を基に荒井座長様を中心に、報告まとめ案を送付をしていただき、事前に配付の上、ご欠席の皆様からもご意見を頂戴しておりました。

県教育委員会といたしましては、これからの社会の激変、少子化という時代において、専門教育の維持、充実に努めてまいりたいと強い思いを持っております。少子化の対応ですが、総合技術高校につきましては、県の説明に加え、前回2校の校長による説明によって、総合技術高校の仕組み、教育内容、学ぶ生徒の様子などについて、十分ご理解いただけたのではないかと考えております。

新しい時代の産業人材を育成するとともに、地域の皆様方に愛され、支えていただけてい

る専門高校の学びをより充実するため、是非活発で前向きな意見交換をお願いしたいと思っております。

本日もよろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

なお、本日も都合によりまして欠席をされている方をご紹介申し上げます。

J Aあづみ組合長、千國茂様、松本機械金属工業会、平林正吉様、安曇野市商工会会長、高橋秀生様でいらっしゃいます。まだお見せになっていない方も後からお見えになります。それから、代理出席をいただいている方をご紹介申し上げます。

大町市教育長、荒井今朝一様の代理として、職務代理者の中山様。大町市商工会長、坂中正男様の代理として、専務理事の竹村様。それから、松川村商工会長の石川様の代理として、北原様。よろしくお願い申し上げます。

---

### ◎会議事項

○司会 それでは、会議事項に入らせていただきます。

荒井座長様、お席に移動していただき、会議進行をお願い申し上げます。

○座長 信州大学の荒井でございます。よろしくお願いいたします。

座って進めさせていただきたいと思っております。

それでは、まず初めに前回の議事録に関してでございます。事前に送付のほうをさせていただいております。お目通しいただけたかと思っておりますけれども、何か修正等があれば、事務局のほうにお話しいただければ対応いたしますので、改めてご確認のほどよろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、具体的な会議事項のほうに移らせていただきたいと思います。

次第をご覧いただけたらと思っております。

先ほど説明ありましたが、本日は会議事項ということで、(1) 報告(案)についてというふうになっております。冒頭事務局のほうから説明のほうをしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○事務局(県教育委員会) 皆さん、こんにちは。

県教育委員会高校教育課の山岸でございます。よろしくお願い致します。

それでは、私のほうから、合同部会の報告案についてご説明申し上げます。

冊子にしてお配りしてあるもの表紙、報告(案)とあります報告書をお開き願います。

この報告の概要としましては、目次として書いてございますとおり、開催要項、それから構成員、これが3ページ。そして、1回、2回、3回の開催概要を4ページから記してございます。

開催要項の2ページは飛ばさせていただきます、4ページをお開きください。

開催概要として取りまとめさせていただいているものでございます。枠組みの中が会議の内容を短くまとめているもの。枠の下に総合技術高校の説明、これをポイントのみ丸印で数点記載をしております。このうち、スライドの中のここにありますスライドの前で掲載をさせていただきました。この後、意見の概要ということで、ご発言いただいた方、お

名前を伏せさせていただいて7ページにかけて、AからEの方のご意見を要約して掲載をさせていただきます。

続いて、第2回の会議でございますが、内容は同じでございます、枠組みの中は会議の内容、それから前回の意見等を記載させていただいています。第2回の会議につきましては、3校の総合技術高校の説明をということで、スライドの中からピックアップしまして、数点について掲載をしています。その後、意見の概要ということで、全員の方から前回のご発言をいただきましたので、同じようにAから次ページのPの方まで、全員の方のご意見を要約してまとめて掲載させていただいております。

3回につきましては、まとめということで、この会議が終わりましたら、報告事項といたしまして掲載していきたいと思っております。

最終ページ、11ページでございますけれども、この会を受けまして、ご報告（案）ということで、座長と事務局の方で素案を提示したところでございます。

全ては読みませんが、ポイントとなりますことは、中段のところに総合技術高校の設置を前提としてというところがポイントとなるものであるというふうに思います。

以上、事務局からまとめの報告でした。

○座長 ありがとうございます。

ただいま事務局のほうから説明いただきましたけれども、本日ご欠席の方からあらかじめ連絡をいただきまして、ご意見を頂戴しておりますので、そちらを共有したいと思います。こちら、職員のほうから説明お願いいたします。

○事務局（安曇野市教育委員会） それでは、共同事務局、安曇野市教育委員会、沖と申し上げます。よろしくお願いいたします。

ご欠席者からご意見を頂戴しておりますので、「事前に寄せられたご意見」をご覧ください。読み上げさせていただきます。

J Aあづみ組合長、千國様より、少子化の加速や定員割れの状況から目をそらせてはならずという認識は共有いたします。そのため、普通高校については私立高校との関係性を整理し、松本広域として再編すべきと考えます。一方、専門校については、定員割れだから総合技術高校という発想はやや短絡的であるように思います。これからの企業人に総合的な知識が必要なことは当然であり、これまで専門校ヒアリングにおいて、各校においては、そうした観点からカリキュラムを編成しており、成果も上がっていると承知しております。そうした取組では不十分ということでしょうか。

さて、報告についてであります。委員間で共有されたとありますが、私を含め産業界側に慎重な見方があることを踏まえた表現とすべきではないでしょうか。もちろん定員割れは放置できない課題であります。その対策として、総合技術高校のみが選択肢かという問題意識です。

次、松本機械金属工業会、平林様のご意見です。

教育が最重要な問題であることは疑問の余地はないが、学校運営にはお金はかかります。私自身は恐ろしいほどの少子化に対する危機感を感じており、これだけ生徒が減るなら、学校を減らすのは当然のことです。学校が多過ぎます。塾と違い、学校教育においては、少なくともいろいろな部活ができるぐらいの生徒数、ボリュームが必要です。

また、教育においては言うまでもなく教えてくださる先生の質が重要です。少子化ということは先生になる人も当然減ります。学校数の確保のために、無理やり先生を採用した場合には、先生の質の低下になるのは明らかです。高校については、市町村も先生たちもOBたちも地域との結びつき、地域と密着、地域で働いてもらいたいということを強調されるが、子どもたちの意見を大切に取り入れながら、地域の活性化等ばかりで、本当に子どものことを考えているのだろうかと疑問です。

高校生にはほとんど外へ外へ目を向けてもらうことが重要と考えます。県の対応については、3校を1校にする程度のことでこの問題を解決しようとしているのなら、甘過ぎるのではないのでしょうか。

なお、次のページは本日ご出席の安曇野市教育長、橋渡様、大町商工会専務理事、竹村様のご意見・要望でございますので、ご覧いただきたいと思えます。

以上でございます。

**○座長** どうもありがとうございました。

ただいま、ある種対照的なご意見のほうを頂戴いたしましたけれども、それぞれ報告(案)の中身について、これから順次確認のほうをしていただきたいと思えます。説明、まとめ、報告(案)のほう、順を追って見ていただけたらと思えます。

冒頭めくっていただきまして、説明のとおりでありますけれども、開催要項、そして構成員というのがありますけれども、こちらに関しまして、修正すべき等々ございましたらご発言いただけたらと思えますけれども、いかがでしょうか。

冒頭確認しておいたかもしれませんけれども、こちらの報告というふうなものを今日掲げまして、今月末に予定されております懇話会、あるいは小規模のこちらの地区の協議会のほうで検討をしていただくベースをつくるという形になります。

開催要項及び構成員に関してはよろしいでしょうか。

(発言する者なし)

**○座長** では、ご協議いただいてありがとうございます。

次のほうに進みたいと思えます。

続きまして、4ページ、そして5ページ、6ページ目の中段までになります。

3月11日、昨年度の3月11日に開催されました第1回会議の内容になります。

4ページから5ページの中段までは県のほうの説明の概要をこちらでまとめさせていただいた内容ですので、ご確認いただければと思えますけれども、その後、5ページの下の方から6ページ目の上にかけては、ご発言いただいた内容をこちらのほうでまとめさせていただき、要約させていただいたというふうなことでありますので、お名前は伏せさせていただいておりますが、ニュアンス等が異なるというふうになりますと、後で問題になりますので、確認をいただいて修正事項等があれば、この場で修正をしたいというふうに思っておりますけれども、いかがでしょうか。AからEまででございます。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

**○座長** ありがとうございます。

では、続きまして6ページ以降になります、第2回会議ということになりますけれども、

6 ページ、7 ページ、そして8 ページの上段におきましては、こちら先ほどと同様、教育委員会のほうで用意をさせていただいたものについての要約になります。その後、前回の第2回の会議では、Aから9 ページになりますけれども、10ページの中段になりますP というところまでご意見のほうをこちらで記載させていただきました。表現の仕方、ニュアンス等、不十分であればご発言いただいて修正したいと思います。いかがでしょうか。

では、安曇野市教育長のほうからお願いいたします。

○安曇野市教育長 安曇野市の橋渡でございます。よろしくお願いいたします。

第1回会議の6 ページから7 ページにかけての丸囲みの中でございますけれども、7 ページの上段にかけて、最後のところに総合技術高校は魅力的な仕組み、学びの場であり、是非進めてもらいたいという意見が大勢を占めたと、このように事務局でまとめていただいておりますけれども、果たしてそういう認識でいいのかどうかと、私は疑問に感じました。

私、今日の事前に寄せられた意見のところの1 番にも書かせていただいておりますが、前回はこの発言要旨でいいますとAの方、副座長さんが決まった折りに意見を述べられまして、総合技術高校の設置を前提にとにかく考えるということを端的に一人ずつ意見を差し上げたわけでございますけれども、一巡してほぼ時間という印象でございました。確かに総合技術高校は魅力的な仕組み、学びであるということは共有されたとは感じました。

しかし、是非進めたいという意見が大勢を占めたとということになると、これは部会としての一定の方向性が出たというふうにも捉えられるわけで、これは第1回の会議のときに駒瀬室長様からこの会議で方向性を見いだすというものではございません。皆様のご意見をこちらでも吸い上げるような形で次の段階に進めてもらいたい。地域の声もしっかりといろいろな場面で聞きながら進めていくことが一番肝要だという観点からこの会を開くんだと、こういうふうにおっしゃってありましたところからすると、大勢を占めたとするのは適切な表現かどうか、是非ご検討をしていただければ。

私の代案としましては、本地域への設置も考えられるという発言が複数あったというか、そういう記述なら事実と相違ないというふうに感じますが、いかがでしょうか。

以上でございます。

○座長 ありがとうございます。

他のご意見をいただいた上でこの後やりますけれども、いかがでしょうか。今、第2回の会議の中身についてということですが、よろしくお願いいたします。

○池田町教育長 池田町の竹内でございます。よろしくお願いいたします。

今、安曇野市の橋渡教育長先生からご発言ありましたことについては、私も同様に感じるところがございます。報告の裏側、この後のまとめ案のところ太字下線で総合技術高校の設置を前提としてというふうに書かれているというところに、今のご指摘につながる部分だと思っておりますけれども、今日、先ほど読んでいただいたもの、ご欠席の委員の皆様のご発言を見ても、やはり全体として総合技術高校を設置すべきというところまでは、なかなかちょっと2回の会議じゃ、そこまで意見が集約されてはいないんじゃないかというふうに私は思いました。

私自身は、県教育委員会が進めています総合技術高校の有用性であるとか、その意義で

あるとかということとは十分理解できましたので、大変総合技術高校の魅力は感じておりますけれども、今後、この地域における設置という具体的なお話しについては、今回、この合同部会ではそれに対する疑問や幅広い観点から課題の提起も幾つもいただいておりますので、やはりそここのところの重みを等しく併記というような形で、一つの方向性にまとまらなかったというような、むしろ正直なというか、そういったような報告のほうは今後の懇話会や協議会の議論の一つの糧になるのではないかなということをお考えしますので、そここのところは是非客観的にまとめいただければと思います。

以上です。

○座長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○座長 それでは、座長、私自身の立場としての発言になりますけれども、こちらの記載の部分に関しまして、6ページの下の部分になりますが、総合技術高校の設置に対して、この地区ではまだ機が熟していないとの懸念や既存の方法で既に総合技術高校に負けない学びが行われているため、現況を維持すべきという意見が出されたがというふうなところまではよろしいでしょうか。この後なんですけれども、先ほど安曇野市教育長からもご発言ありましたけれども、総合技術高校は魅力的な仕組み、学びの場であるということは共有されたというところまでは、皆様事実認識としては合意をさせていただいたということではよろしいでしょうか。

○池田町商工会長 説明はありましたね。この説明は。なら、発想として1年や2年のところでどういう成果が出ていると言えるんですか。問題は総合技術高校というものもあります。それから、もうそれ以前に出たところによりますと、既に問題も出ているという話もお聞きしています。ですから、ここで発足して1年、2年のものが、どういう成果を上げたということは言えないと思うんです。

問題は、それがありきで発言者が発言されているということ、推し進められているということは、いわゆる会議の中で本当に理想的な総合技術高校というのは何だというものが、ここでは論じていないんです。ただ説明があったという範囲でとどめてほしい、このように思います。

○座長 一つのご意見として、今、頂戴しましたけれども、また疑義があればご発言いただきたいと思いますが、前回は先行事例の3つの学校のほうからご説明いただき、その後、お一方ずつその仕組みに対する評価をお伺いしました。そして、先ほど橋渡教育長がおっしゃられたように、その仕組み自体の魅力的な部分、そして学びの場であるというふうなことは共有されたというのは、私、座長の立場としてもこの部分は最低限、皆さん共有していただいたというふうに理解をしていたんですけれども、その部分を違和感があるというふうに理解したほうがよろしいでしょうか。

○池田町商工会長 共有というものと説明を受けたものと、意味違うでしょう。共有という観点と、理解したということと、それがよろしいというものの、そういうところのどこまで幅を広げるということですか。

○座長 今、私のほうで説明させていただいているものは、一つは説明のほうはさせていた

だいたという、事実としてオーケーだと思います。もう一つは先ほどの橋渡教育長のご発言にもありましたように、この高校の仕組みということが魅力的に映るというふうな感想を持たれた委員の方々が多かったということは事実でありますので、そのところを記載すればよろしいですか。

○池田町商工会長 それは一つの学校の今後の進め方という捉え方じゃないですか。

○座長 進め方というのは。

○池田町商工会長 取組の仕方ということではないですか。

○座長 すみません、私の理解度の部分もあるかもしれませんが、ですからこのところは事実としまして説明をしていただいたことを踏まえて、皆様方からのご感想等をいただいた結果をまとめる必要があるかと思っておりますので、こちらの冒頭の部分では是非進めていただきたいという意見が大勢を占めたというふうに、数というふうな意味で書かせていただきましたけれども、それに対してそこまでのニュアンスは強いというふうなご意見を今、安曇野、そして池田町の教育長からいただきましたので、とは言いましても安曇野の教育長からはその仕組み自体は魅力的なものであるというふうな意見が大勢を占めたというふうなことは事実であるけれども、ご発言いただきましたので、その部分を記載したらどうかと思います。

○池田町商工会長 私はそう考えません。

○座長 それはどの部分を。運用的な部分ということですね。

○池田町商工会長 3校を、3部門を一緒にして、同じ教育をするということと、それが何を求めているかということです。

要するに少子化ということと切り離して考えていかないと、教育というものは少子化とは一緒にならないです。教育ということは。しかもこれは普通高校じゃないんですよ。専門高校ですよ。それぞれ。その辺のところをちょっと私はどうやっても理解できないです。

もう一つ、よく考えなきゃいけないのは、よく今まで過去出ているのは、小学校の6年生の最後の仕上げを中学校で1年間やらなきゃならない。中学校の教育を3年では終わっているわけですけども、高校で1年間、その仕上げをやらなきゃならないということをよくいわれてきた経緯もある、一般的に。

○前安曇野市PTA連合会長 意見よろしいでしょうか。

○座長 少々お待ちください。

では、出水構成員のほうはちょっと時間の関係で途中退席ということもありますので、矢崎構成員におかれましては、こちらの文面のまとめ方の代案をちょっと提案していただければと思いますので、少しお時間いただいて、出水構成員のほうご発言いただきたいと思っております。お願いいたします。

○前安曇野市PTA連合会長 お話の途中で申し訳ありません。今もお話ししておりましたけれども、ちょっと退席しなきゃいけないものですから、今、されていらっしゃることは座長がおっしゃるとおりで、報告としてどのようにまとめるかというのが今の論点でして、その中で今回表記されています内容が、報告として正しいのかということ疑問にされていらっしゃる途中だというふうに、まず認識しております。

その報告の中の総合技術高校は魅力的な学びの場でありということ、大半を占める

かどうかという、○・×という話だと思っていますので、それを見たとき、私、前回、またすみません今日も申し訳ないんですけども、途中で退席したんですが、今回意見の概要、先ほど異論がなかった意見の概要を見ますと、全部で16あって、9から10のご意見を見ると、魅力的に感じていらっしゃるというふうに明確に記載されておりますので、大半という意味で行くとそれは当たるのではないかなと、その部分に関しては、その部分というのは総合技術高校は魅力的な仕組み、学びの場であるという意見が大半を占めたところまでは、これは客観的にですけども、○としていいのではないかなというふうに思います。

その上で、その後の是非進めてもらいたいというところは、橋渡さんおっしゃったとおりでして、私も個人としては進めることが必要だというふうに思っている、意見の持ち主ではあるんですけども、この合同部会全体としてそうなったとはやっぱり思っていないで、この表記はちょっと違うんじゃないかなというふうに感じております。

以上です。

○座長 ありがとうございます。

他には関連意見としていかがでしょうか。

(発言する者なし)

○座長 したがいまして、先ほど来のこちらの座長としての提案ですけども、先ほどの冒頭の部分でありますけれども、総合技術高校は魅力的な仕組み、学びの場ではあるというふうな意見が大勢を占めたというふうな形を原案のほうはさせていただいたんですけども、こちらについて、この協議についてご意見等あれば、事実確認のほうをしていただけたらと思いますけれども、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○座長 では、この第2回の会議の内容に関しましては、一部修正がありますので、もう一度確認をさせていただきたいと思っておりますけれども、6ページ目の下段になります総合技術高校の設置に対して、この地区ではまだ機が熟していないとの懸念や既存の高校で既に総合技術高校におけるような学びが行われるため、現状維持すべきという意見が出されたが、総合技術高校は魅力的な仕組み、学びの場であるという意見が大勢を占めたというふうな形に修正のほうをさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

続きまして、第3回の会議の内容になります。10ページになります。

こちらに関しましては、本日の内容ですので、また後ほど事務局のほうと相談の上、決めさせていただきたいと思っております。

それでは、続いてというふうに思っております、お配りした資料の10ページ目になります。

こちらの内容に関して、後ほどまた引き続きお一人ずつご意見等を簡単にいただけたらなというふうに思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

こちらの内容に関して事務局のほうからの説明というのはいかがいたしますか。

いいですね。

では、こちらの内容をまとめさせていただいた関係もありまして、少しこの報告（まと



め案) というふうについての説明をさせていただきます。

こちら作成の途中で、またすごく小さなニュアンスでありますけれども、主語述語とか、てにをはを含め、誤字脱字はまた修正をさせていただくというようなことは、あらかじめご理解のほうをいただけたらと思っております。

1段落目になりますけれども、こちらは冒頭お話しになりましたとおり、一定の結論を出すものではないという前提で開催されたがというふうなところであります。少子化の加速や定員割れの状況という現実から目をそらしてはならず、合同部会の中でも次世代に対して責任ある議論を積極的に行うべきであるとの意見もあった。こちら事実であります。

そして、合同部会は次のような議論が行われたということになります。

第1回の合同部会ではということで、先ほどの内容をここに概略させていただきました。続いて、第2回の合同部会ではということで、こちらは少し主語述語を入れ替えますが、県教育委員会事務局から令和3年3月公表のこちらの資料において、総合技術高校は次のようにまとめられているというふうな説明がなされました。また、県内の総合技術高校3校、こちら3つについて、幾つか説明のほうをさせていただいたというふうなことになります。

この説明を踏まえまして、皆さんにご意見等を頂戴したわけですが、こちらの最終的なまとめの案ということに関してご意見をいただけたらと思っておりますけれども、これらの1回目、2回目とこの説明を加えまして、本地区における今後の少子化の状況や社会の変化に対応した専門教育の維持、充実を図るためには、総合技術高校の設置を前提として、今後具体的な条件整備の在り方を議論していくべきであることが委員間で共有されたというふうなことで、この時点ではまとめさせていただきました。

他方、先ほど冒頭にありました皆様方からニュアンスの問題や表記の問題等々あるかと思っておりますので、後ほどご意見等いただきたいと思っております。

その後ですけれども、なおということで、今のまとめた部分が非常にシンプルであったということもありますし、他にも重要なご意見等をきちんとこの後の会議体のほうに回していただくこともありますので、どのような具体的な意見があったのかというふうなことをまとめさせていただきましたのが、なおから始まるものになります。

そして、今後の論点ということで、皆様方から前回ご意見、ご感想ともにいただいたものを大きく分けまして4点に大別することができましたので、こちらのほうを記載させていただきます。

最後は、冒頭こちらの会議体というふうなことの後に、旧第11通学区の懇話会、そして12通学区の協議会がありますので、こちらの内容を踏まえた審議を行ってほしいというふうなご要望を記載するというふうな形にさせていただきました。

ここまで、報告まとめ(案)の全体像についてはよろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○座長 今、残りの時間を使って、こちらとできましたらこちらの中身を今日確定させていくというふうなことの運びを進めたいと思っておりますので、またお一方ずつご意見をいただいて、ご理解のほうをさせていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

では、先ほどご発言いただいた出水委員、時間の関係もあるということでもありますので、

こちらのまとめについてご意見いただけますでしょうか。

○前安曇野市PTA連合会長 一つだけありまして、ちょうど事前に寄せられたご意見。松本機械金属工業会の平林様のご意見と同じなんですけれども、地域との結びつきというのは大事だと思いますけれど、「地域にしばらない」ということの方がより大事だと私は親としては感じておりまして、子どもの可能性とか世界を狭めるようなことを教育はしてはならないという認識を持っています。その点については、以前も私は申し上げてきたつもりですが、報告に入れてもらえればありがたいと感じました。

「地域のために」ということはすごく大事なことだと思っておりますが、子どもたちが戻ってきたくなる地域にするのは学校ではなくて、今いる私たち大人の役割であり、行政も含めてですね、それは別の話じゃないかなというように感じています。それは別の課題として私たち大人がしっかりと取り組んでいかなければいけない。自然に彼らが戻ってきてここで働けたり、生活したくなるような場所にしていこうということは別の課題だと思っております。

○座長 はい、ありがとうございます。今ご発言いただいた趣旨をまとめますと、一つ目は地域と子どもたちとの関係もありますけれども、「子どもの可能性というものを重視した上でデザインしていくべきだ」というふうなご発言かなというふうに思っております。ありがとうございます。

さしあたり皆さんから意見を一巡させていただいた上で、どこに盛り込むのか確認をさせていただきたいと思いますのでご協力をいただけたらと思います。こちらから時計回りにという形でよろしいでしょうか。一言ご発言をいただいとっております。よろしくお願ひします。

○北安曇郡・大町市小中校長会長 このまとめなんですけど、基本的によくまとめていただいとっております。ただ、出水さんが言われたように、教育の可能性として地域のことを大事にしてどうするかという方向とか、それは大切ですし、教育という可能性から見た場合は、地域で働いてもらうためにということ、中学校の教師として世界に出ていく子どもをつくりたいということを含めて、そこだけにしばりたくない、目が流されてはいけないと思いたしました。

総合的な技術高校の魅力というのは、これまでも勉強しましたが農・工・商を全部一緒にしたいいわゆる第六次産業ですね、結局。そういうことの時代になっているので未来の子どもたちのためにも、そういう前向きな方向を考えていくことは必要であり、いろいろな面で前進していける教育の場が欲しいと思ひ賛成です。

○前安曇野市小中学校校長会長 基本的にここに係れている内容でよろしいかと思ひます。特に「子どもたちを主とした当事者の気持ちに真摯に向き合い丁寧なフォローアップをしていくべきである」とありますが、これは子どもたちを第一に「スチューデント・ファースト」というのがありますけれども、こういう意味に私は捉えさせていただきました。そこを是非大事にさせていただきたいと思ひます。これから「10年後・20年後を見据えた責任ある意思決

定」というのは、そこに関わってくることじゃないかなと思います。

また、今後の論点としては②で「子どもや保護者に対する積極的な情報提供を行い」の後の「中学生や保護者に選ばれる高校となるための方策を考える」、このことは本当に今申し上げたこととリンクして大事なことだと思います。

○元大町高校校長 概ねこのまとめに賛成の方向で意見を言わせていただきます。やはり子どもを中心としていること、具体的な条件整備のあり方について議論していくべきということ、それから通学区を越えた合同部会を行ったのは初めてだと思います。

本当に有意義なことだと思いますし、総合技術高校に一步先を行った議論になったと私は感じています。ただ、課題はあります。(総合技術高校に)メリットがあるということは第1回、2回の会議で私は申し上げましたけれども、その中にも書いてありますけれども、例えば私立高校との関係は都市部の普通高校との関係ですね、こういうものも盛り込んでいただいているので、是非一刻も早くというか、1年でも早くこういった改革を進めることが大人の責任だと私は感じています。

○豊科高校校長 このまとめ案ですけれども、私も大方のところ賛成ですが、ちょっと冒頭の部分で「合同部会は“一定の結論を出すものではない”という前提で開催された」と。これはその通りです。それで「開催されたが」というところから、まだ議論は続いているわけですが、ちょっとこの辺のところについて少し違和感を感じる部分もあります。

というのは、私自身は前回申し上げたとおり、総合技術高校の設置については推進をしていただきたいと考えている立場です。と言いますのは、ちょうどこの中信地区ではインターハイ予選がこの中信で行われておりまして、コロナでちょっと大変なんですけれども、この安曇野市内に県立高校は4校ありますが例えば野球部を例にとると市内の4校は既に1校単独では野球部を構成できなくなっています。

そして合同チームというのを結成して日頃の練習を行ったり大会に出場したりとか、そういう生徒数、学校規模になってしまっております。これが本当に子どもたちにとって幸せなことかなと考えたときに、やはり農業・工業・商業はそれぞれ大切な学びであり、専門性があります。

それを担保したまま子どもたちにとってもう少しスケールメリットというところを考えたときにも豊かな学びができる。そういう環境を与えるためにはどうしたらよいかというところの解決策の一つとして(総合技術高校は)非常に有効であるというように考えています。そういう意味で成長してほしいと思いますけれども、この会で皆さんから出たご意見を総合しますと、中段のところ太字で書いてある部分について、先ほどからご要望が出ていますけれども、この原案のとおりであるかどうかということは、少し疑問を感じておりました。

高校の統合・再編設置ということに関しても、最終的には設置者である長野県教育委員会が責任を負うことですので、そこから出された案について地域の皆様、様々な委員の方々がお考えになるかということ率直に語っていただくというのはこの会の趣旨であろうと思いますので、そういったところで議論をやっていただければいいかなと感じております。

○松川村商工会長代理 先ほど、この会は結論を出すものではないと言っていますが、皆さんおっしゃられているように、中学生や保護者に選ばれる高校になることを考えると、受験希望者がいなければ高校は成り立たないことを考えていただいて、この方向で進んでいけばいいんじゃないかなと思っています。

○大町市商工会議所会頭 私、事前にですね、事前に寄せられた意見ということで最終ページの一番最後のところに記載をさせていただきましたけれども、この報告案の中段の太字のアンダーラインが付いた部分ですけれども、文末にですね、「委員会で共有された」と言い切っておるんですけれども、これにつきましては一部にそうではない方もいらしたことから、「多くの皆様の大勢であった」という言い方に改めていただきたいというのが私の意見であります。

○小谷村教育長 私もこのまとめ案についてはこれでよろしいかと思います。先ほどから出ておりますように子どもたちのことを考えることが大事だと思っていますので、新しい高校に進んでいくことについては、是非子どもたちが選んで行きたいと思えるような高校をつくっていく必要があると思います。

○松川村教育長 私も1点だけあります。先ほど大町商工会の坂中専務理事さんが申されました、アンダーラインが入っているところですかね、「委員間で共有された」という部分は会議の冒頭からその話が出ておりますので、こここのところの書き方を少し変えていただければ、全体的にはそれぞれここまで皆さんが申されてきたことが大体集約されていると思いますので、その一点だけお願いしたいと思います。

○生坂村教育長 私もほとんどの委員さんがおっしゃっていますように、まとめていただいたことには問題がないのかなというふうに考えておりますし、やはりお忙しい方々が3回集まって合同部会ということで議論を尽くされてきたところですので、ある程度は「こんな方向だ」ということが(懇話会の)委員の中で議論してもらえるような案と言いますか、まとめは必要だと思いますので、総合技術高校の設置について新たに議論してもらおうということでまとめるのが良いんじゃないかと思っています。

○安曇野市教育長 最初にですね、前回と同じように一人ずつ意見を聞いているこのスタイルですね、最終的に一人ずつが言って終わりであれば、これは意見を出し合ったに過ぎず、私は議論したことにはならないと思っているんですね。そういう意味で前回一巡した(意見)、それが正に議論の入り口だというふうに申し上げているのはそういうことでございます。

したがって、座長さんには是非ですね、今お聞きしていますと「基本的にこれで良い」「大方賛成」、皆さんそういうふうにおっしゃっているんですけれども、「だからこの課題は大方この方向で良いんだ」ということではなくて、是非少数意見、違う意見であっても聞いていただいて、「それに対してどうなんだ」ということを是非意見交換していくことが議論で

はないかと思しますので、そんな進め方をお願いしたいと思います。

さて私は、どのように思っているかという点も前回も申し上げましたようにこの問題は「機は熟していない」と、このようにまとめさせていただきました。この委員をお引き受けしたときに、もちろん私は教育でも小・中を所管している立場で仕事をしている者でございます。高等学校で実際にどのような教育が行われて、どのような課題があるかということは、詳しく承知しているわけではありません。

しかし、自分がこの安曇野から部会の構成員として意見を述べるからには、できる限り地域の声をお届けするのが自分の責任だろうということを思ってまいりました。そして、安曇野の部会の皆さんと市内4校に足を運んだことも度々ございますし、教職員、保護者、同窓会、生徒の皆さんから直接お話を聞いてまいりました。お隣の生坂村の教育委員会も共同事務局として一緒にやっていただきました。

私は、そういった声を自分の体で、頭で、心で直接聞いて感じたことはですね、自分の今ある学校に愛着と誇りを持って一生懸命学んでいる学校が現在あるわけです。そして、地域が一生懸命それを支えようとしてやってきているのです。池田工業高校には「魅力ある池工をつくる懇話会」というものがあって、私も安曇野市の生徒が全校の半数を占めという中で一緒になって、そういったことを考えてきているんですね。

しかしながら、今日まとめていただいたように「総合技術高校の設置を前提にする」ということは、今ある、対象となっている3校（南農・穂商・池工）は「閉校」ということなんですね、イコール。「新しい学校をつくる」ということは、今ある学校が無くなるということなんです。こういったこと（総合技術高校の設置）を大前提として、こうやって言うて大丈夫なんですか。

私は安曇野の4校の関係者と話をすればするほど、ここのところがまだまだそんなことをとても言い出せない環境に置かれているものですから、大変苦しいんですよ。総合技術高校の必要性であるとか、それはよくよくお話を聞けば聞くほど未来の子どもたちに必要かもしれない。でも今、必死になって学んでいる、どちらかと言えば中学校時代にそんなに表立って活躍や、テストの点がたくさん取れたような子どもたちではない子どもたちが、その学校の中心となって一生懸命腕を磨き、何とか自己実現を図ろうとしているこういった人たちに対して、「総合技術高校というものが大事なんだ。そっちへ向かうんだ。だから学校が無くなるんだ」ということですよ。

そうしたときに、このまま期限までに、3月までに結論をとということで県教育委員会からこの報告のまとめを受けて「総合技術高校の設置を前提とするのが良い」と部会の皆さんから言われたので県教育委員会もそうします」と、こういう形になって本当に大丈夫ですか？私はとてもそんな自信はありません。これを機は熟していないと申し上げたわけです。

少し長くなりましたけれども、もうちょっとだけ話させていただきます。この度はギガスクール構想によりまして、それこそ一気にICT環境の整備が行われました。これはまさに「時流に乗る」ということでした。それに遅れてはいけないということで飛びついたわけですが、この総合技術高校という問題も時流に乗るという点では必要なのかもしれない。しかし、進め方がいかに言っても慌ただしいんですよ。

前回の会議から今回の会議にしても事務局の皆さんは大変ご苦労されたと思います。発言

記録を全部起こしてこうやってやる。それに忙殺されておられるのではないのでしょうか。(県教委は)せかされてですね、期限までに何かを成し遂げなくては行けないと。拙速という言葉があります。これは、要は出来は良くなくても、仕事だけは、出来上がりだけはするんだというような言葉のようですけども、拙速な判断というのは100年の教育を担う上で大丈夫でしょうか?これが機が熟していないということの大きな理由の一つであります。

もう一つは、先ほどから申し上げているように「既存の学校を閉じる」ということは、明治以来そういったことが繰り返されてきて、時には歩みを止めたり統合したり新たに加わるということは当然あってしかるべきだと思います。

しかし、現在ある学校で生徒や教職員や母校を愛してやまない同窓会の皆さん方、支えていただいている地域の方々に、その現在の学校がどうかということをちゃんと評価してあげないと次へ進めないと思うんですね。「総合技術高校に変わるんだから今ある学校は、今こうだからこうなるんだよ」と納得できるまでちゃんと説明して、「それなら僕たち、私たちはこの学校に移ることを賛成します」と言ってくれば、これはものすごいパワーになるので、まさに一気に進むのではないのでしょうか。

しかし、今のままで、このように拙速に結論だけをせかすようにやってしまえば、今頑張っている人たちはどうでしょうか。諦めだとか、切なさだとか、落胆とかこういうものを覚えるのではないのでしょうか。でも教育というものは希望とか期待に満ちたものでなければ私はいけないと思います。

そういう意味で、このまま突っ走って、この「総合技術高校を前提として」というように書いてしまうと、この後、県教育委員会事務局がどんな苦勞をなさるかとは私はちょっと心配になります。私の部会の長としての責任においてこれを前提とすることについては、まだ時期尚早。慎重であるべき。これが結論であります。

○座長　　ありがとうございました。今、ご意見をいただきましたけれども、その場合の対案と言いますか、どういうふうな文言として最終的に懇話会ないし協議会の方にお出しするのが良いのか、ご意見等をいただけたらと思っております。

○大町市教育長代理　報告書全体としては、先ほどからありますように大勢であるとか、修正すべきところはあると思います。ちょっと個人的な思い入れも含めた話ですけども、大町市でも少子化の関係で小中学校の再編ということが話題になっています。それで高校の方も再編していくという方向は大きな課題としてあると思います。

その一方で、私が(教師の)現役の時にですね、勤めていたところの近くの高校に授業参観に行ったことがあります。そうしたらですね、先生は一生懸命授業をしているんですけども半分とは言いませんが何割かの人(生徒)たちが、居眠りをしているんですね。(私は)授業の妨げになると思ったんですね。ところが隣の教室は自習でした。先生が出張されていてプリントは一枚渡されていて、「これやっつけ」と。そのスラスは活気があふれていました。

先生がいると寝ているのに、自習になるとこんなに活気があるのは何故だということで、後でその学校の校長先生とお話ししたら、「実は高校の授業をどうしたら良いか困っているんだよ」と。じゃあ、「私の勤めている中学の方へ見学にいらっしやい」ということで、中学は

その当時、曲がりなりにもいわゆる問題解決学習というものをいろんなところでやり始めていました。そしてやはり子ども中心の学習もたくさんあるわけです。講義式ではなくてね。

それで高校の先生方も参加していただいて、翌年、高校から「授業を変えたので見に来て」ということで中学からたくさん見に行きました。高校の授業改革ということで昨年とは全然違う。そうしたようなこともあって、さっきの高校の先生方も授業の改革を一生懸命されています。いろんな学校でそういうことが行われていて、議事録等を見させていただくと総合技術高校はですね、専門科は乗り合いになっていてさらに効果があるという面で、総合技術高校はそういう意味で高校の改革の一つの象徴なんです。そういう気がしています。

しかし現実には、この大北の地域はどうかということについては、今、橋渡教育長さんが言われたみたいに、やはり地域の高校というものは、たくさん伝統もありますし、今すぐに進めていくというよりは、まだ全体の地域への浸透と言いますか、そういうものは足りないなどは思います。しかし、あのとき何人かの（高校の）生徒が授業中なのに居眠りをしていた姿を思い浮かべ、今、新聞報道などでなされているように子どもたちが地域を出たり地域に戻って来たり、あるいは子どもたちがテーマを見つけて研究したりという生き生きとした姿を見るにつけ、ある種の新しい学校というものも必要なんだろうなということだと思います。

最後に、私、現役の時に中学生に将来の夢についての作文を出せということがあったんですが、何年も前から子どもが「未来を描けなくなる」と言うんです。「自分は将来あれになりたい、これになりたい」とは言うんだけど、本当にそうなのかということについての夢は中学生段階では具体的に描けない。

そうした場合に、本当は農業をやりたいんだけど経済も面白かった。違うところもやりたいんだ。そこはやっぱり進路の選択を「早く決めろ、早く決めろ。それに向かって行くんだ」というようなことを言うんだけど実際の子どもはそうじゃないと思います。今の子どもは。体験も少ないし仕事もしたわけじゃないし、自分の将来を描くことは昔に比べて非常に弱くなっていると思います。

そういう意味で、「進路を変えられる」という言い方は変ですけども多様な進路を。農業で入ったんだけど、あるいは工業で入ったんだけど、違うところもということも含めた進路が保障されるような学校というものもあっていいのかなと。そういう意味で総合技術高校というのは魅力的な学校だなと私自身は理解しています。

ただ、橋渡教育長さんが言われたみたいに慎重にやっていく必要があるかなと思います。

○池田町教育長 私自身はですね、この合同部会という会議の役割というものを、もう一度しっかり確認する必要があるかなという観点から発言させていただきたいと思います。このまとめ案の冒頭にありますとおり、この合同部会は「一定の結論を出すものではない」という前提の中でですね、この会議の役割を考えるに、この会議としてはやはり次に最終段階である 11 通学区の懇話会、12 通学区の協議会に正確な報告をするというのがこの会議の一番重要な役割かなというように思います。

つまり、私がこの会議に 1 回、2 回と参加してこれまで皆さん、本当に忌憚ない闊達なご意見を出されたなというように率直に感じます。いずれのご意見もやはり等しく尊重すべきだなと思います。先ほど座長がですね、総合技術高校の魅力については共有された。私も

それでいいかなと思いますけれども、その後の具体的な話についてはですね、やはり様々な意見を併記していただくという中で、一つ一つの意見の内容、ニュアンスも含めて正確に次の会議に伝達するというのが、今回のまとめの一番重要な役割だと思いますので、是非内容には正確を期した記述をお願いできたらというふうに思います。

その観点からするとですね、「総合技術高校の設置を前提」というふうに言い切ってしまうのはちょっと言い過ぎかなと。やはり、先ほどからさまざまな意見というかご要望も出されていますので、そういったことも踏まえて、次の首長もメンバーであります懇話会・協議会で何と言いますか、誤解の無いしっかりとした議論を進めていただくために、我々合同部会の報告としては正確な内容でまとめていただくことを切に願うものです。

あと補足ですけれども、地域と高校との関係についてですが、私自身ですね、地域に子どもたちを縛るということは結局、本末転倒だというように思っています。ただ、やはり今の時代ですね、良い学校があれば人が集まるということも事実であります。これは全国どこでもそうですし具体例を出すそうですね、島根県隠岐の島にある島前高校のような「島留学」なんていう取り組みをしているところなんかもあります。

義務教育、初等教育ですね、新しいスタイルの学校ができれば全国から何百何千という方が見学に来たりするというような時代になっていると思いますので、総合技術高校に魅力があればあるほど、やはり多くの人たちがそれを目指して寄ってくる。それが仮にですね、交通の便が不便なところにあってもですね、逆にそういう魅力的な高校があることによって長野県全体のプラスになるかなというようには思いますのでそういった点で私は前回も申し上げたとおり、経済効率性だけで場所を決めるということがなければいいなというように前回申し上げました。

○白馬村教育長 今、委員の意見を聞く中で、このまとめのアンダーラインの部分については修正が必要であると思います。

○池田町商工会長 一定の結論を出すべきではないといいながら、ここに導きたいということが本音ではないの。当初から、こういうものを考えなきゃいけないと。今日、大勢の方いらっしゃるけど実際本当に、みんな観念的ですよ。いい、悪いについて。県教委で、こういう高校を考えているというところから進めてこないから、そしてここにいらっしゃる委員、教育関係の方もいらっしゃるから、あからさまな反対をしないんですよ。ですから、この会議の進め方について私は疑問を持っている。皆さんが、農業・商業・工業に実際の専門高校に携われたかということも疑問です。

穂高商業も南農も定員をオーバーしている。そういう中で、産業界、日本の技術をどうするかという観点でものを見ていかないと。わずか1、2年の総合技術学校で成果が出ていないんですよ。だから出されたものが全部観念的なんですよ。

確かに少子化を抱えている。これに取り組んで10年近くやっっているながら、なんで最後ここに来て、3か月、4か月で方向を出さなきゃいけないのか。提案提起の仕方が悪いんですよ。いまこういう状況になっている、ただ、県としては、総合技術高校を考えています。

これについてもっと具体的な問題を出してもらわなければ、教育というものはそんなに簡



単ではないですよ。ここにいらっしゃる方が、工業でも商業でも農業でも携わっている先生はいらっしゃれば別ですよ。多くの方は現場の対応した専門高校の方は少ないんじゃないですか。だから論じるには、現在の工業でも商業でも農業、同時に一つの高校として技術高校という手段を考えていると、同列で。結論ありきの考えでは、最初から提起して、最後にきて、結論出すべきでないといいながら最後にこうまとめようという、だから話がおかしくなる。意見は並列でいい。こういう意見があった、こういう意見があったということで、出しておいて並列で上にあげていくと。

まとめようとするからおかしくなる。そうすると結論ありきでしょ、会議の最初から。結論ありきの会合だったらやらないほうがいい。それぞれの皆さん、誰だっていそがしいんだ。教育ってものは目先のものではない。将来の日本を目指す落としどころのことを考えなければいけない。いま日本の産業は技術者が減ってきている。それに対して、どういうふうに行くかということは何も書いていない。

18、17、16歳になった人間をこんな甘い考えだけで日本の教育をやっていただけますか？教育は学校だけのことではないんです。専門高校を出た人間がどんな技術者になって、日本をどう支えていくか大きいスケールをもって学校を運営していかなければいけない。阿部知事は長野県の学校は少ない。そして出ていくところが、地元に戻ってこない。より優秀な人材を育てたいと彼は言われます。私もとにかく世界からこの時代を担うような大学を目指してほしい。

最初から高校再編を考えていいのか。再編の中に技術高校という方向も考えているよ。だったら、技術高校についてもっと県の考え方、進め方を具体性がなきゃいけない。ただ1回のスライドで説明して、その高校はまだ多くの卒業生を出していない。もうちょっと深く現実的なものを考えてもらわなければ困る。

橋渡委員のご意見は素晴らしいと思う。池工の生徒、1万人以上出ていますが、大町、安曇野の工業を支えているのは池工の生徒、地元の生徒、そういう産業界の流れをつかんで、地域の産業を支えているのが、どういう範囲になっているか、政治的な問題としてとらえてなければ、こんな形の中で議論してペテンにかけるような会議の進め方がありますか。(欠席された)平林委員、千国委員は、現実に現場を見ておられる。

ですから、私が提案するのは、まとめる必要はない。これこれこういう意見が出されたということによって、これを並記する。

**○座長** ありがとうございます。冒頭、皆さん時間が限られた中で参加していただいていますので、構成員の皆さんに対して失礼な発言はしていただきたくないなと思っています。それぞれの皆さんからそれぞれの現場で意見を集約していただいて、ご発言をいただいていますので、私にとってはそれぞれのご意見をフェアに扱っていると思っています。

2点目に関しましては、それぞれ評価が分かれるかもしれませんが、県の教育委員会の方では、既に令和3年3月の時点で総合技術高校というふうなものの提案というふうなものをしているという事実があります。

県におきましては、この時点で総合技術高校というふうなものについての案を具体的にし

ているというような認識を持たれていると思われます。それに対して、お集まりの皆さんにそのアイデアに対してどのようなご意見があるかどうするか。を検討するのが合同部会の位置づけです。皆さまから様々なご意見をいただき、先ほどの矢崎委員のご意見は全部記載するというようなご意見をいただきましたので、議論していきたいなと思っていますけども。

一巡させていただきまされたので、もう少し深めるアイデアもあるかと思ひます。皆さんのご意見の一つは、統合で特段問題ないというご意見をいただきました。二つ目として、統合して賛成ではあるが、中段の下線の部分に関しては事実<sup>に</sup>即した形にもう少し修正すべきだ。というふうなご意見をいただきました。もう一つの意見としては、こちらの標記の仕方についての見解ということで後ほどうけさせていただきますと思っています。

冒頭説明させていただいた、報告・まとめ（案）ですけども、第1回、第2回何が行われたのか、それにおいてどういう意見が出たのかを客観的説明する必要がある、というご意見をいただきましたので、一つの提案ですけども、今後、具体的な条件的整備のあり方を議論していくことが共有されたということに関しては、協力論や反対論も存在していたということがありますので、一つの提案ではありましかども、総合技術高校の設置を前提として、今後具体的な条件整備のあり方を議論していくべきである。という趣旨の意見が体制を占めたという形ですと。

結論に対する評価はそれぞれ別れると思ひますけども、事実<sup>に</sup>即した記載になるのではないかなということで、こちらで提案させていただいた一つであります。もう一つは、先ほど出水委員が冒頭で申し上げまされたけども、地域オンリーを思っ<sup>て</sup>子どもの可能性を狭めてはならない。おそらくこのまとめの部分の下から3段落目の部分の「子どもたちを主とした当事者の気持ちに真摯にむくえてフォローワークしていくべきである」の中に入るのではないかなと思っ<sup>て</sup>いるわけですけども、こんな意見も出ています。

先ほどの橋渡教育長の意見踏まえて、中段の「なお」の部分ですけども、私としましては、上の、表示された先ほど修正案の中では「大勢を占めた」という形にしますけども、この後の懇話会ないし、12区の協議会の議論に資するという目的を考えまして、「なお」の部分では各論的な具体的な意見を出していただいたものを列記する形で記載させていただきます。

さらに、その思ひづけい<sup>う</sup>ものに関して橋渡教育長の方から意見をいただきましたので、文言上の問題はありますけども「なお」の段落の最後に10年後、20年後を見据えた責任ある意思決定が必要である。など重要な意見が出たことを申し添えておく。というような形にできたらと今考えてみましたがいかがでしょうか。

あらためてまとめまして、この報告の主語述語に対しては、もう少し今日の意見を踏まえて修正としていただく可能性がありますが、一つ目は、第2回の議論の内容そして今の意見を集約する形で共有した、共有しなかつたというものに関しては印象が与える影響がありますので、議論していくべきであるという趣旨の意見が体制を占めたというふうな形ではいかがかなということ。

もう一つは、「なお」のあとに多岐にわたる意見が出たということで、もう少しそれぞれの意見を大事にしたい。「なお」以降、もっとスピード感を進めるにはというご意見もありましたし、いつまでというご意見もありましたので、それぞれ重要なご意見だと思ひます。従いまして、必要であるなど最後の方に、次の協議会ないし懇話会の方に繋げていくというよう

な形を考えましたけどもいかがでしょうか。

私としましては、併記というようなご意見もごもっともという部分もあるかもしれませんが、3回という時間をかけて皆さんにお集まりいただきましたので、それを踏まえて首長を含めた政治的な立場のある方々が、具体的にどちらの方が数としての関心があるかと思っておりますので、そちらのニュアンスを伝える必要が一方である。ところが慎重な意見も出ているというのも事実ですので、改めてこちらに記載させていただいた形にしたいと思います。その他ご意見等あればいかがでしょうか。

(※以降、まとめ案の表記に関する意見交換)

○池田町教育長 総合技術高校の設置を前提として、もしくは前提とした具体的な条件整備のあり方という表現ですと、前提という部分で意識が変わってしまうかなという印象がございます。あらためて、総合技術高校の設置に向けた具体的な条件整備のあり方を議論していくべきであるということに、趣旨の意見が委員の大半をしめたという表現ではいかがでしょうか。

○座長 総合技術高校の設置に向けた具体的な条件整備のあり方を議論していくべきであるという趣旨の意見が体制をしめた。委員間というのを削りたいと思います。ご提案をいただきましたがいかがでしょうか。

設置を前提としてというふうなもの、設置に向けたというどちらが強いニュアンスなのかは人によって感じ方が違って、むしろ「に向けた」というほうが強いと感じられた方もいらっしゃる気も私としては感じましたけども。一つの意見として頂戴したいと思います。他にいかがでしょうか。

○(発言者不明) 今の前提という言葉に代わる言葉の例題として、前提に向けたある程度の方角性が改正される言葉として受け止めます。提案としましては「総合技術高校の設置を含む」というような言い方はいかがかと思っております。

○座長 「設置を含む」というのは私も考えたものであります。他方で、それに対する対案がこの場で議論が出たかということ、いわゆる総論に対する見解というものも賛否両論にとどまっていたものがありましたので、その「含む」というもののそれ以外は何なのかということの話になっていく可能性がありますので、あえて皆さんの中で前回のご意見をいただいたニュアンスを込めて、あえてここでも「前提として」というのはニュアンスとして柔らかくしたつもりではありますけども。一つのご意見として賜りたいと思います。

○安曇野市教育長 県教育委員会が平成30年9月に出された実施方針のところには、「総合技術高校の設置も考えられる」というふうに記載がありまして、旧11通学区、12通学区に投げかけがあって、この会は持たれていることだと思います。県教育委員会が、総合技術高校の設置も考えられるかどうかということに対して答えるのであれば、私は積極的に「前提」と

というのは時期尚早という意見ですけれども、総合技術高校を選択肢の一つにすべきと、これは皆さん多くの方々おっしゃっていることと違わないように思うんですが、選択肢の一つになるんだってことですよね。現在の専門高校をもっと魅力あるものにするということも述べられていましたので、こういった方向も最初からそれはないんだということではなくて、併せて検討する中で先ほど私が申しあげたことと言えば、現在の専門高校の評価をしっかりとっていく。このことも、次のステップに行く大事な要素だと思うものですから、選択肢の一つとするというような条件を提案します。

○座長 確認になりますけれども、下線部分にある「総合技術高校の設置」を「選択肢の一つとすべきである」という意見が大勢を占めたという理解でよろしいでしょうか。

○安曇野市教育長 選択肢として、今後もこの地域の専門高校のあり方について議論していくという段階ではないでしょうか。

○座長 今のご提案は、総合技術高校の設置ということに関して、案としては総論賛成という案が多かったのですが、今の提案についていかがでしょうか。

○（発言者不明） 先ほど、保坂先生からもありました少子化に向けた課題ということがあって、さきほど例として野球部の存続もままならないと、今後野球やいろいろなスポーツがあると思うのですが、スポーツもうまくいかないということで、やはり統合再編という方向ははずせないというところが現場の高校のお立場からするとあるのかなと考えると「選択肢の一つ」というところに戻ってしまうと、どうなのかなって少し思います。ある程度学校の数を減らしていくという方向で、総合技術高校も選択の一つとなればいいんだけど、今までの議論からすると疑問があります。

○北安大町市小中学校校長会長 こういうまとめっていうのを、話し合いの事実を書くということならば、捉え方によって変わりますので、基本的にぼくは、ここにまとめられた意見を見ると、たとえば、その設置を前向きにだとか、設置を前提としてというか、ここに書いている部分に近いものが「大勢」というと僕も何を言っているのかわからないので、ここにいらっしゃる方のたとえば7割くらいですかね、そういうものを意見に、数を数えましたと。まあ、7割程度の方が、こういう意見を持ち、次はまだこれからしっかりと議論を深めていくべきだと、さらに子どものことを大事にすべきだというご意見もあったってまとめを、そのまま事実を書けばいいのかなと思いました。何を賛成するか反対するかというよりも、まとめということと言うならば、論理的に書くとしたら、まあ少し数値的なものを使って書けばいいんじゃないかというふうに思います。大勢を占めているというような書き方は日本人の最も悪いところだと僕は思ってます。数字で書けばいいんじゃないかなということを提案します。

○座長 ほかにご意見いなかでしょうか。では、改めて確認なんですけれども、こちらの今

日まとめさせていただいたものを次の懇話会のほうに報告をするというようなことが大前提です。そういったなかで、第一回、そして今回を含めた形での結論というようなものを正確にお伝えしていただきたいというふうなものをいただきましたので、改めてこの下線部分の提案をさせていただきますけれど、木下委員から、数をというようなことをいただきましたが、実のところ、みなさま方のご発言は、誰が何を発言したか、というものを伏せさせて、あえて、いただいております。それは、それぞれ皆様お立場等々ありますので、A、B、C、Dというふうにアルファベットの標記にさせていただいているというふうなところがありますので、さらに多数決というようなこと、数を明示するということに若干の違和感が一方にあるというようなことがあります。従いまして、改めて確認させていただきますけれども、総合技術高校の設置に向けた具体的な条件整備の在り方を議論していくべきであるという趣旨の意見が、大勢を占めたというふうなかたちで、それぞれのこの結論に対しては、もっと強く書くべきだというふうなご意見や、そうではない結論を書くべきだというふうなことがあるかもしれませんが、そのようなことが大勢を占めたという事実が、おそらくみなさん応援していただける内容だと思いますので、そのような形にしたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。そして、それだけですとニュアンスが伝わりにくいというような可能性があるので、大勢の中身、あるいはそれ以外の中身ということで、なお以降に個別のご見解を記載させていただいて、次の審議に期待するというようなかたちになろうと思っておりますけれど、よろしいでしょうか。

○池田町商工会長 もう一回言ってください。

○座長 はい。まとめの中段にあります下線の部分の記述なんですけれども、第一回、第二回目の経過を書かせていただきました。これらの説明を踏まえ、本地区における今後の少子化の状況や社会の変化に対応した専門教育の維持、充実を図るためには、総合技術高校の設置に向けた具体的な条件整備の在り方を議論していくべきであるという趣旨の意見が大勢を占めたというふうなかたちで、こちらの議論の構成を客観的に記載させていただいたというふうなかたちで整理をしてみました。

○池田町商工会長 ちょっと、おかしいな。

○座長 なぜですか。

○池田町商工会長 「べき」というのは要らないね。「べき」ということは、方法を示す言葉だからな。

○座長 あ、ですので、方法を示さないということを私は提案しているのではなくて、そういう方法を示すというような意見のほうが、大勢を占めたという事実を書こうというふうなアイデアなのです。この合同部会では、一定の結論を出さないというようなことですので、どんな意見が多かったのかということを示すということに留めようというアイデアなんです。

○池田町商工会長 だから、方法を示すべきであるという言葉は要らないんじゃないですか。「べきで」という言葉は決定的な言葉です。

○座長 ですので、「べきだ」というふうなご意見がたくさんあったということに記載したいということです。

○池田町商工会長 そんなに、多かったですか？「べき」というのは。

○座長 はい。

○池田町商工会長 だからわかってないですよ。誰も。自分の世界で感想を言っているんです。いまの、総合技術高校をですね。それぞれが自分の世界で捉えている。

○座長 ええ、ですので、わかっていないかもしれません。わからないかもしれないんですけども…

○池田町商工会長 そのことを明確にしようとしているんでしょう？総合技術高校を捉えるだけじゃなくて、総合技術高校というものをより理解するために、捉えた段階での話でしょう？これからは。それぞれの、みなさん、自分の世界で言っているですよ。私は私なりに総合技術高校を理解しているし。それぞれのみなさんは共通の理解というものはないんです。県が描いている、それは納得できないですよ。みなさん、違うんですよ。具体的ではないんですよ。既存の学校がある。その学校をどうするかというのが大きな課題なんです。今後、より高度な技術者を揃えるための、技術者を育てるための高校教育を、そのなかの一環として、県が提案された技専というものが出てきた。べきであるということは、そっちへ行くんです。

○座長 ですので、すべきであるというご意見が多かったというふうなことを書きたいということなんです。(51:23)

○池田町商工会長 それは違います。そういう意見が多かったというふうにすべきではない。意見が多く見られた、と。そういえばいいじゃないか。だから、無理して座長がそっちへ誘導しなくてもいいですよ。そういう意見が見られたということで方向っていうのはいいわけです。そうすれば受けたほうで、またそれを考えるべきことだ。

○座長 もう一度確認させていただきますけれども、総合技術高校の設置に向けた具体的な条件整備の在り方を議論していく必要があるというふうなニュアンスだったらいいということですか。

○池田町商工会長 そうですね。そうすると穏やかでしょう。

○座長 ただ、一方でですね、具体的にもっと推進していくべきだというふうなご意見をたくさんいただいたと

○池田町商工会長 じゃあそれでいいじゃないですか。推進すべきという意見もあったと。それから理解すべきという意見も、理解したいという意見もあったと。だからそれはそれで列記していいんじゃないですか。あえて合わせて一個にしなくたって。そういうふうに座長のほうに要請があれば別ですけれどね。

○座長 それはないです。

○池田町商工会長 じゃあそうしましょう。どうせこれは上へ送っていくんですから。この会を。

○座長 では、ご意見をありがとうございました。竹内教育長、お願いします

○池田町教育長 ちょっと話が前に戻りますけれども、第二回会議のところでは先ほど座長からいただいたところを踏まえてですね、先ほどの委員の発言も踏まえてですね、どうかかなと思ったのが、総合技術高校の魅力や有効性について、共通理解を図りつつ、今後、県立高校統合の可能性とその具体的な条件整備の在り方というものを議論していくという趣旨の意見が大勢を占めたというところでちょっとストレートな書きぶりにはなりますけれども、総合技術高校の魅力と有効性というものをですね、しっかり共通理解をするという前提のなかで、もうストレートに統合の可能性とその具体的な条件整備の在り方を議論していく2点が多く出されたみたいなので、むしろストレートに書いたほうが第二回の会議の流れと整合するかなと思いましたがいかがでしょうか。

○座長 ちょっと、私の偏見もあるかもしれませんが、むしろストレートじゃなくなるような印象ももっているんですね。ひとつあえてですね、前回の議論のなかには、みなさんにお配りしているね、第二回の、実はですね、7ページ、の一番上に総合技術高校っていう魅力的な仕組みや学びの場であるというふうなことについて皆様方全員の合意がとれているというふうに書いていいかがわからなかったっていう部分もありましたので、このような文章だけ、ひとつの文章にさせていただいたのです。ところが先ほど橋渡教育長はじめ、こういった仕組み自体魅力的な面ということについては、理解できたというご発言をいただきましたので、総合技術高校は魅力的な仕組み、学びの場であるというふうなことが合意されたというふうなことを記載させて修正させていただく、というふうなことが先ほどの皆さんと確認させていただいた事項になります。ですので、その総合技術高校という仕組み自体に魅力を感じたというようなことは全員で共有したことであるというようなこと、もしこの場でご確認していただけるとするならば、今後も書くということに関しては、やぶさかでは

ないですけれども、それについてもまだ様々なご意見があるかもしれないというふうに思いました。で、あえてその総合技術高校の魅力についても魅力に映る方とそうでない方もいらっしゃると思いますので、その記述はあえて抜きまして、こういう意見が多かったというふうなことで、この部分では整合をとらせていただいたというような関係でありました。逆にですけれども、推進していくべきであると、具体的な検討を進めていくべきいうふうに考えていらっしゃる委員の方々は、先ほどのニュアンスとしまして総合技術高校に向けた具体的な条件整備の在り方を議論していく必要があるという意見が大勢を占めたというような表記の仕方でもよろしいでしょうかというようなことをお伺いしたいなと思いました。それでは少し、ニュアンスが弱いんだというふうなことであれば、大勢を占めた意見の方々の部分を正確に記述したいと思っておりますが、ご意見伺えればと思っておりますがご意見いかがでしょうか。

○（発言者不明）いま座長おっしゃったアンダーラインのなかに具体的な条件整備という言葉がありますが、たくさんの方が具体的な条件整備を進めてほしいというのはあまり具体的にでていなかったような気がします。私としては、総合技術高校の設置については、今後、積極的に検討していくのがいいんじゃないかという意見が半分以上あったというのが、正直なこととか、実際に出された意見じゃなかったかなと思っております。

○座長 具体的な条件整備のイメージは、募集の人数、キャンパスの数、専門の重きの置き方、教員の配置の仕方、施設設備、ICT など、そういったものについては我々が现阶段で検討すべきことではありませんので、今後の論点としてはというところには実は係ってきているわけですが、皆様が懸念として示された部分に関して記載をさせていただいたというような形であります。

○（発言者不明）具体的な条件整備の在り方について、議論をしてくれということは大切だということですよ。そのなかに、たとえば現状のままで残るということも選択肢として残るといっても私はあると思います。というのも、いま座長おっしゃったように、今後の論点というのを①から④でだしてあるんですよね。これが課題なんですよ。そういうことをこの報告にまとめることが最も大事なことになるので、ぜひ具体的な条件整備の在り方について議論してほしいというそんな思いは出していきたい、それが大切だと思います。

○座長 実はこちら、前回も矢崎委員の具体論として、今回も観念論という話もありましたけども、そこに触発されて県のほうでもっと具体的なものを出すべきだというご意見も存在しているかと思ひまして、このような記載をさせていただいたという形です。

ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、下線部の部分を中心にまとめをさせていただきます。「総合技術高校の設置に向けた具体的な条件整備のあり方を議論していくべきであるという意見が、あるいは、という趣旨の意見が大勢を占めた」という形にさせていただきまして、ご参会いただいている合同部会の皆様が、このあとの協議会ないし懇話会の場合でも同じように議論いただくお立場で



あると思いますので、ここでのニュアンスを含めて次の審議に活かしていただくという形にしたいと思います。いかがでしょうか。

(発言する者なし)

○座長 よろしいでしょうか。ご協力ありがとうございます。それぞれ皆様方、率直な意見をお出しいただき、こちらもちょうど本日の議事録を含め今日の会議の内容をまとめさせていただきたいと思います。あらためて少し加筆等をさせていただきますけれども、確認をさせていただいた内容の部分についてはそのまま進めたいと思っていますのでご了解ください。最後に今後の流れについて確認させていただきます。旧第 11 通学区に関しましては 5 月 24 日に第 4 回懇話会があります。そちらの場でこの内容についての報告がなされることとなります。先ほどから様々なご意見をいただいておりますけれども、この場ではこの地区の中学生、高校生に対する面接調査、アンケート調査、質的量的な調査も含めての報告がなされることになっています。旧 12 通学区に関しましては、この後事務局を通じて具体的な日程が決められると伺っていますのでよろしく願いいたします。3 回にわたってご多忙の中お付き合いをいただきありがとうございました。事務局のほうにお戻しします。

#### ◎閉 会

○司会 荒井先生には議事の進行、たいへんありがとうございました。閉会に先立ちまして県の教育委員会からご挨拶があります。

○県教育委員会 3 回にわたる合同部会、ありがとうございました。荒井座長様はじめお忙しいお立場の皆様にご時間を割いていただきお集まりいただきまして感謝申し上げます。本日は意見交換と報告のまとめのご審議をいただきありがとうございました。合同部会でお決めいただいた内容につきましては 11 区懇話会、12 区協議会でご報告いたすところですが、地区をまたいだ合同部会での意見交換は深い意義があり、県教委といたしましても合同部会のまとめを重く受け止めさせていただきたいと思っています。今後 11 区の懇話会、12 区の協議会での更なる議論が進みます。長丁場となって誠に恐縮でございますが、そちらの会のほうもよろしく願います。本日は誠にありがとうございました。

○司会 以上を持ちまして安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会第 3 回会議を終了いたします。お忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございました。